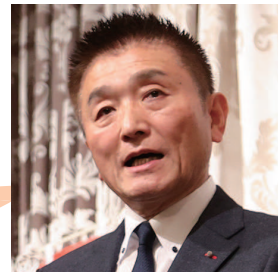




熊本県議会議員

高島和男がゆく

令和7年 11 月号



第30回 くまもと物産フェア

9月27日、グランメッセ熊本で開催された「第30回くまもと物産フェア」に出席し、経済環境常任委員長として議長の代理で祝辞を述べました。

今回のフェアは30回という節目を迎え、さらに6年ぶりにグランメッセ熊本で開催されたこともあり、出展者数が大幅に増え、例年以上に盛大なものとなりました。

会場には、商工会をはじめ県内各地で県産品の魅力を発信し、販路拡大に取り組む事業者の皆さんが一堂に会しました。

台湾グルメや食の体験コーナー、アトラクションやステージイベントなども設けられ、家族連れを中心に多くの県民の方々にぎわいました。会場の熱気からも、熊本の「食」の持つ大きな力を改めて実感いたしました。

私自身、仕事柄、和・洋食をはじめ料理人の皆様の会合にお招きいただく機会が多くあります。そのたびに強く感じるのは、食べ物を生産する方々、流通に携わる方々、そして料理人の皆さん、この三位一体の協力があってこそ、私たちは豊かな料理を楽しめるといことです。今回のフェアも、まさにその連携と力が結集した場であったといえます。

熊本県は「食のみやこ熊本県」創造推進ビジョンを掲げ、全国有数の農業県として培ってきた多彩な農林畜水産物や、郷土料理・伝統食、さらには県産酒などの豊かな食文化を強みとしています。熊本本の「資源」を高付加価値化し、国内外に広く発信していくことが、稼げる農畜水産業の実現や食関連産業の発展につながります。

私も、こうした取り組みを通じて新たな県産品のマーケティングやPRを進め、本県の経済と産業の活性化に一層努めてまいります。

今回のフェアは、出展者と来場者の新たな出会いやつながりを生み、熊本の「食」の未来を切り拓く契機となることでしょう。



安心・安全なまちづくり

① 日吉2丁目

交通の危険箇所は幹線道路よりも、むしろ身近な生活道路に潜んでいます。住民の方から「ヒヤリ」「ハッと」した場所の指摘を受け、関係機関の協力で交差点に青い注意ラインを設置しました。



② 南高江5丁目

小学生が通学する道路で、落下した銀杏による悪臭や滑りが危険との相談がありました。子どもが国道に出してしまう恐れもあるため、関係機関の協力で木の枝の剪定と路面の洗浄を実施しました。



熊本西環状道路

花園ICと池上・熊本駅IC間が開通

10月19日、熊本西環状道路の花園ICから

池上・熊本駅IC間(約8.7km)の開通式に参加しました。

これで熊本市の西側をぐるりと結ぶ大きな道が一步前進し、市街地の渋滞緩和や災害時の緊急輸送などにも大きな効果が期待されます。

私はこれまで一般質問などで、熊本市の東西格差の問題を取り上げてきました。東部地域では人口も地価も上がる一方で、西部地域では人口減少が進み、まちづくりのスピードに差が出ているのが現状です。西部地域を元気にしていくためには、熊本港を中心とした物流や観光の拠点づくり、そして道路網の整備が欠かせません。



今回の開通は、その第一歩となる大きな前進です。今後は、池上から熊本港方面へとつながる区間や、下硯川から九州自動車道へ接続する計画の早期実現が期待されます。

熊本市圏がより行き来しやすくなり、暮らしや経済のバランスが取れたまちになるよう、これからも力を尽くしてまいります。



決算特別委員会に臨む

定例会の閉会直後の10月6日午後から、27日までの日程で県議会では決算特別委員会が開かれました。委員会の定員は会派の人数に応じて割り振られるため、私も3年ぶりの参加となりました。

企業にとって決算が極めて重視されることは言うまでもありません。一方、国や地方の議会においては、新年度の予算審議が大きく注目されるのが通例です。しかし私は、決算こそが議会の役割を最も問われる場であり、支出額でどれだけ中身のある事業が実施され県民に還元できたのか、指摘した内容が次年度の予算にどう反映されるのか何より大切だと考えています。

ここで思い起こすのが「PDCAサイクル」です。一般的には「Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)」の順に回しますが、議会の場合はむしろC(Check=決算)から始め、次のP(Plan=予算編成)につなげることが重要です。決算での検証を欠いたままでは、真の改善や改革は望めないからです。

今回、委員に選出され、各部ごとの審議に参加したことを重く受け止め、昨年度の事業執行や予算の使い方について、私なりの視点で精査し、成果と課題を明らかにした上で、次につなげる循環をつくることこそ責任ある議会の使命と考えたのでした。

